

エゾネコノメソウの自生を稲穂地区から確認



博物館の窓

第95回

学芸員 持田 誠

5月上旬、浦幌町の稲穂地区で、ユキノシタ科のエゾネコノメソウが自生(栽培植物ではなく野生植物であること)していることを確認しました。すでに十勝毎日新聞で報道もされています。

この植物は、これまで主に釧路・根室管内での生育が知られていましたが、十勝地方の実態は不明でした。浦幌町からは、直別での生育が知られていましたが、直別は地形的には白糠丘陵の北東部に位置するため、自然地理的には釧路地方に含めて考えた方が良い地区です。

今回、浦幌町稲穂地区という、白糠丘陵の南西側、つまり十勝平野に該当する地域から、少なくとも2箇所での生育が確認されました。このことは、エゾネコノメソウの分布が、なぜ道東に偏っているのか?を考える上で、重要な意義を持つ発見と思われれます。

博物館では、論文にして、学会に分布報告を行なう予定です。



浦幌町の稲穂地区で生育が確認されたエゾネコノメソウ。鮮やかな黄色い「苞葉」が特徴的。浦幌町立博物館撮影。